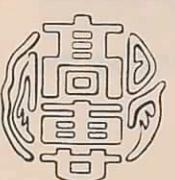




(写真部撮影)



有明高専だより

NO.91
1997.3

INTERVIEW

高松校長退官を前にして

本校に着任されて5年、退官を迎える高松校長先生に学生会長の井上和哉君(4E)と報道局長の磯田恵子さん(4I)がインタビューしました。初めて入った校長室、ちょっと緊張はありますかが、校長先生がどんな仕事をされ、学生のことをどのように考えておられるのか、よく知ることができたようです。



・高松校長

井上 有明高専に来られて何年になりますか。

校長 着任してこれで5年目が終わろうとしています。

磯田 有明高専に来られたときの学校および学生の印象はどうでしたか。

校長 外見からの印象では、まず本校に着任

するすぐ前の卒業式に列席したとき、スーツや着物姿の卒業生諸君を見て、思っていたより大人っぽいなと思いました。でも、そのあとすぐ新入生オリエンテーションで1年生を見て、これはまだ子供だと感じて、高専の5年間というのが、身体的にも精神的にもいかに変化が大きい成長期なのかを改めて実感しました。

ところが、だんだん時間が経つて実態がわかってくるにつれて、少なくとも社会的な面での成長という点では、5年生といえどもまだまだなあと思うようになりました。ですから講話の折りなどに、できるだけ社会に対する

る視野を広げるように

ということを言ってきたつもりです。

あまり背伸びしすぎてもいけませんが、私が皆さんの年代の頃には、よく大人の人から「子供は口をだすな」という言い方をされたものですが、そのたびに心の中で「年少何の咎咎」という言葉を叫

びながら、早く大人に負けない視野を養おうと奮闘したもので、このごろはそういう形の刺激が減ったのかもしれませんね。

井上 着任されたころの学生と今の学生を比べて変わったなと思われる所はありますか。

校長 いま話したような基本的部分については、当初も今も変わりませんが、校内の雰囲気は女子の増加で変わってきたようですね。また、社会の風潮でしょうか、社会や学校など集団の中での決まりを守ろうという意識が、残念ながら少しづつ薄れてきているように思います。

磯田 校長先生の20才ぐらいの時はどんなでしたか。

校長 私が17才、旧制高等学校に入学した年に戦争に負けたので、君たちの年頃は戦後の混乱のまっただ中でした。学校の寮に居ましたが、昼食は蒸したサツマイモがたった二切れで、それ以外何もないという、おそらく君たちには想像もつかないような時代でした。

それでも、高等学校の学生はみんな自分たちがこの国の将来を担うんだという意識と使命感に燃えていましたから、そんな中でも明るく意欲的で、よく勉強するし、結構青春していたと思います。

井上 有明高専の校長をされていて一番うれしかったこと、よかったです。

校長 在任中で一番と言われると困りますが、校長として一番うれしいのは卒業式ですね。入学してきたときはまだ幼さが残っていた学生たちが成長して、社会に向けて出発していく姿を見るだけに教育者という仕事をしていくよかったです。

ほかに強く印象に残っているのは、やはり高専体育大



・井上君(4E)

会関係が多いですね。平成4年度に駒沢競技場で4×100mリレーに全国優勝したとき、次の年、松江市営陸上競技場で当時5Eの田中昌臣君が400mに全国大会新記録で3連覇したとき、昨年の九州大会のバスケットボール決勝リーグ最終戦での激闘などが思い出されます。

それと昨年の新入生オリエンテーションの後で、熊本県の公立高校の元校長先生から学生諸君の態度に対しお褒めの手紙をいただいたときも大変うれしく思いました。

磯田 逆に一番残念に思われることは何ですか。

校長 残念に思うことはたくさんあります。でも、やはり学生の中に社会や学校のルールに反する行為が起きたときが一番残念です。

井上 いろんな行事があったと思いますが、印象に残った行事を教えてください。

校長 行事の中では体育祭でしょうか。学生諸君のはつらつと躍動する楽しそうな姿を見るのは、何よりも楽しいものです。新入生オリエンテーションでの新入生の初々しい姿も印象的でしたね。

それと行事ではありませんが、阪神大震災のとき、学生会が募った義援金に多数の諸君が拠金してくれたことも強く印象に残っています。

磯田 校長としての仕事は、どんなことをされておられるのですか。

校長 一口では説明できませんが、学校を運営していくうえで決めていかねばならない現在の問題、将来の問題について、その進め方や処理について一人で考えたり、関係の先生や事務官の方々と相談したり、書類に目を通すなどの事務的な仕事をしたり、学校外のいろいろなところとの連絡や折衝をしたり、学内で会議を開いたり、外部の会議に出席したり、いろいろな挨拶の内容を考えたり、多種多様な仕事をやっています。

毎日家をでるときは、今日はこの仕事を片づけようと思ってでてくるのですが、学校にくるといろいろ差し迫った事柄が飛び込んできて、朝思っていたとおりに仕

事がやれる日はそう多くはありません。

井上 やり残されたことはありますか。

校長 学校制度を含めて、世の中のあらゆるもののが今は変革の時期ですから、その中で高専がやらなければなら

ない新しい事柄が次から次にでてきます。ですから、やり残したことはいっぱいあります。なかでも専攻科設置を実現できなかったことは、たいへん心残りです。

磯田 21世紀の高専への夢を伺わせてください。

校長 技術は人間の生活の質の向上を目的とするのに対して、科学は人間の知的探求心の現れですから生活水準向上との関係は本来間接的だったのに、近頃は科学がすっかりオブジェクト指向的傾向を強めてきたため、社会の注目が科学に集まる傾向にあります。

でも、どんなに人間の生活に役立つことが学理的に証明されても、それを実際に役立つ「もの」として実現しなければ意味がありません。ですから、人間の生活にとって技術は、科学と同等あるいはむしろそれ以上に大切なものであって、学理偏重にならず技術者に必要なものづくりの教育を重視する高専の存在意義が、大学の大学院重点化が進むにつれて、いっそう増してくることは疑いありません。

有明高専が今後教育の中身をいっそう充実して、地域だけでなく、全国的にも存在感のある学校になってくれることを願っています。

井上 高専生に望むことは何ですか。

校長 たくさんありますが、一番肝心なことは、技術者を志すことと高専生であることに誇りをもって勉学に励むことです。

そして、社会に出てからは、仕事は自分のためだけでなく、人のため、社会のためにするものだということを決して忘れないでください。「君たちが社会から何を得るかではなく、君たちが社会のために何ができるかを問おう」というJ. F. ケネディの言葉を出発点に、それから出てきた自分の夢の実現に向けて、力一杯生きてほしいと思います。

井上・磯田 本日は貴重なご意見を伺うことができました。長時間ありがとうございました。



・磯田さん(4I)



校長室にて

CONTENTS

高松校長退官を前にして	2
特集 対談 卒業を前にして	4
シリーズ 「中学校訪問」	6
シリーズ 「研究室訪問」	7
特集 がんばってるよ留学生	8
就職戦線報告	10
学寮だより	13
シリーズ 「クラブ紹介」	14
学生会だより	15
TOPICS・編集後記	16

座談会

卒業を前にして

●中野 智晴 (5 M) ●石橋 英紀 (5 E)
 ●北島由美子 (5 I) ●若菜 晃子 (5 C)
 ●濱口光一郎 (5 A)

司会 中川 忠昭 (電気工学科)

司会 皆さん、あけましておめでとうございます。今日は卒業研究等大変忙しい中、各学科を代表して出席していただきました。5年間の高専生活を振り返って、特に印象に残ったこと、後輩へのアドバイスなどを中心に話を聞かせて下さい。中野君からどうぞ。



・中野君 (5 M)

う。僕ら今年は出場できなかったんですよ。テーマがわかった時、僕らが考えたものは、あまりいいものではなかった。うちはいつも複雑なロボットを作るんですよ。複雑すぎて動かないこともありました。でも、全国大会に出場しているロボットは簡単で精度が高く、遊び心も入っていました。今年の大会は、アイディア対決というロボコンの趣旨にそった大会でした。ロボコンのことなら僕らに聞けという自信を持っていましたが、……頭が下がりました。僕は3年間ロボコンをやりましたが、全国大会出場のロボットと比べるとチャチャだったですね。

司会 小中学生のロボットJリーグ有明ステージでアシスタンスをされ、大会当日司会進行をされた若菜さん、中学生の印象はいかがでしたか。

若菜 中学生たちのがんばりにびっくりしました。ロボットは、思った以上に皆できが良く、故障もあったけれどがんばる心が大切だと改めて考えさせられました。

北島 私は、5年間で印象に残っているのは部活のテニスで全国大会に出場できることです。低学年の頃は弱かったですけど、ある時期ボコッと強くなりました……5年間続けました。

司会 濱口君、印象に残ったことをお願いします。

濱口 この5年間いろいろありましたが、その中でもやはり玉野工務店と体育祭の獅子を作成したことですね。

司会 あなたたちが作ったのですか！ 獅子は色、デザインともにとても良くできていましたね。

石橋 動きなど相当研究したんだろう？

濱口 獅子を作ってみよ

うということで、5月に長崎市の孔子廟で獅子を見せてもらいましたが、「これは、中国で作られているのでこちらでは作り方はわかりません。」と言われた時は、鳥肌が立ちました。「これは、俺が作るしかない。世界初のmade in 大牟田の獅子を作つてやる。」とね。だから、竹ひごから図面から組む順番まで全部自分たちで考えました。そうなると時間的に余裕がないので、夏休み中ずっと出てきて作製しました。文句一つも

らさず、みんなよくやつてくれたと心から感謝しています。そして、爆竹を鳴らすということも、初めてのことなので、いろいろな意見が飛びかいりましたね。失格になるのではないか、手で持つと

危ないんじゃないかな……でも、他と同じようにして1位をとつても井の中の蛙にすぎないじゃないですか。それなら、羽目をはずしてもいいから観客にいいものを見せ、感動させたい、「記憶」に残したいと思い、考えは曲げれませんでしたね。応援合戦でプラスになったかどうかはわかりませんが、結果がついてきてくれたので、本当に良かったと思っています。

司会 獅子舞の、前足の人と後ろ足の人との呼吸がぴつ



・北島さん (5 I)



・若菜さん (5 C)

たりでとても感動しました。また、物質工学科の女子学生も体育祭でダンスを披露しましたね。その振り付けをされた若菜さん、苦労された点などを聞かせて下さい。

若菜 結果はついて来なかっただけで……大変でした。女子が多いから、何かしなくては、チアガールだけでは点が取れないと思うんです。女の子もがんばっていることをアピールしたかったのですが、……女子パフォーマンス隊はなくならないでほしい。

北島 私は体育祭では学生会でがんばりました。地味な仕事ですね。パンフレット作りなど……

石橋 今年の体育祭の運営は北島さんがいなかつたら大変でした。とても、がんばってましたね。

司会 皆さんは学生会活動、体育祭など各方面で活躍されました。後輩への助言、アドバイスについて聞かせて下さい。

濱口 「今、何のために勉強しているのですか。」と聞かれた時に、「いい大学に入るため」とか「いい会社に入るため」と言う人がいますが、それは違うと思うんですよ。だって、いい大学、いい会社に入ったからって充実した楽しい人生を過ごせるとは限らないんだから。僕が思うに、大学、会社とは、自分の「夢」に向かっていく手段だと思うんです。国際人になるために、英語や中国語などいろいろな言葉を学ぶように。だから、もっと遠く見て、それに向かって努力してほしいですね。また、僕もそうしたいですね。

中野 高専は進学校と違って、自分の時間をたくさん持てます。だから、自分のやりたいことを遠慮せずにどんどんやつたらいいのではないか、と思います。そうすれば、自分自身が充実してくるし、やりがいも出てきます。また、自信にもつながります。せっかく若くいい時期を高専で過ごすのだから、有効に使ってほしい。

石橋 悔いが残らないようにと言いますが、悔いが残つてもいいと思う。失敗を恐れず、いろいろなことを経験してみることが大事だと思います。僕もロボコンをして悔いがものすごく残っています。そこで、悔しいという気持ちを次の物事につないでいくのが大事です。一生懸命やることは最低条件としてあるわけですが、それに加

えていろいろな事にチャレンジしてみる。いろいろな人と話をして自分の視野を広げる事が大事だと思います。

もちろん一つの事に集中することも大切です。

若菜 生きていく上で大切なのは、メリハリではないですか。はじめをつけることだと思います。皆にははじめのある生活を送つてほしい。遊ぶ時は全力で遊ぶ、勉強する時は全力で勉強する、部活の時は部活。全てに全力なら、後での後悔も少ないでしょう？

北島 高専は5年間同じクラスだから人間関係が狭いと思います。私は学生会の全国交流会に出席し、他校の人と知り合いになりました。すごいなと思う人がたくさんいました。もっといろんな所に友達を作る機会を持てばよかったと思います。テニスの全国大会に来る人は努力をした人が多く、そういう人は人間的に見てすごい人だと思います。自分からいろいろな所に出ていくようにすればよいと思います。

濱口 そうですね。何か一生懸命やっていたら共鳴する人が出てきて友達の輪が広がるでしょうね。

若菜 共通の趣味を持つと友達も増えますよね。

司会 高専生活5年間の中で印象に残ったこと、後輩へのアドバイスについて聞かせていただきました。その他辛口の意見などありませんか。

石橋 僕らが1年から5年まで言われ続けたのがゴミの問題です。学生会でも綺麗にしようとしました。今よりもっと綺麗にしたいですね。有明高専は、綺麗が普通だとなればいいですね。

若菜 紙コップでもつぶしてゴミ箱に入れるといいのに。

濱口 自分にプライドとか誇りがあるから、誰でも自分を美しく見せたいと思うんです。自分と同じように学校にもプライドや誇りを持って、ゴミを散らさないだろうし、散らかっても進んで片づけるだろうと思います。もっともと卒業生の業績を知り伝統を守ると同時に、それよりも上を目指してもらいたい。

石橋 それから挨拶が少なくなりましたね。僕らが1年生の頃は挨拶していましたが、今は少ないですよ。通学生も挨拶してましたよ。



・中川先生

若菜 挨拶……生き甲斐でした。

司会 挨拶はお互い気持ちよくかわしたいものですね。今日は有意義な話を聞かせてもらいました。卒業研究の発表まで僅かです。頑張って下さい。4月からは、それぞれの新しい道をしっかり進んで下さい。ありがとうございました。

(平成9年1月10日収録)

シリーズ

中学校訪問

船津中学校
【大牟田市】

校門横に平成4年完成の新しい体育館が建ち、その奥に東西棟の校舎が2棟平行に建つ。運動場は校舎の東に広がる。2学期末の午後、生徒の大部分は下校したようで、運動場ではいくつかのクラブがランニングをしていた。船津中学校に着任されて4年目の小柳喬校長にお話を伺いました。

Q 学校の概要をお聞かせください。

A 本校は昭和22年新制中学校の設立の翌年の昭和23年に右京中学校から分離して創立されました。その当時は大牟田市立第七中学校と称していました。昭和25年に船津中学校の名称に変更しました。現在372人、10クラスで、市内では小さい方です。昭和38年には2000人近い生徒がいました。

Q 教育方針についてお聞かせ下さい。

A 公共心に富み集団の成員としての自覚を身につけ、誠実で実行力があり、かつ、創造性あふれる、人間性豊かな生徒の教育をめざす、ことを教育目標としています。そして、「めざす生徒像」として

自ら学び、たくましく生きる生徒

真理を求める、豊かな心をもつ生徒
健康な体をもち、勤労を尊ぶ生徒
きまりを守り、協力しあう生徒

の4つを掲げています。

Q 学校の特徴は何でしょうか。

A まず、生徒会活動が盛んだということです。運動会や合唱コンクール等の行事では自ら積極的に活動しています。先日の新しい会長・副会長の選挙には20人が積極的に立候補しました。従来から生徒会では「実践8項目」を定めています。その一つに8時25分登校があります。開始5分前に登校し終えるということで、99%実施できています。

その他として、夏休みに実施している部活動別のキャンプをあげることができるでしょう。今の生徒



左から体育館、本館、第2棟（特別教室他）



小柳 喬 校長

は受験勉強に追われ、自然と親しむことに欠けています。山や川や海に接してほしいと思、また、野外活動の楽しさを味わってほしいと願って、実施しています。

そして、第2・4の土曜日の休みには野外活動に親しんでくれるようPTA新聞で保護者に注文をだしたこともあります。

Q 情報処理の教育はどのように推進されていますか。

A 平成3年にコンピューター教室が完成し、20台設置されています。情報基礎が必修科目として授業に組み込まれていますが、それだけでは足りないので、数学や理科の授業をコンピューター教室で行なっています。また、情報教育の在り方を研究するために数学の先生を研究所に派遣しています。

Q 部活動の状況はいかがでしょうか。

A 部活動はかなり盛んだと思います。成績もそこそここのところだと思います。今年度特にがんばったのは女子陸上です。現在人気があるのはサッカーやバスケットボールで、バスケットボールは女子にも人気があります。野球部は休部になりかけのところ、新1年生が入部してくれて部として続いている。

Q 高専に対する印象をお聞かせください。

A 将来自信をもって大学に行きたいと考えているなら、普通高校に行きなさい、もし、普通高校に行って大学進学を迷うなら高専に行きなさい、そして更に勉強したいなら大学に進学し、進学したくないなら就職しなさい、とよく生徒に話をしています。また、自分が好きな科目を勉強して大学へ行ける学校がある、それが高専だよ、そういう学校は高専しかない、とも話をします。

高専は普通高校と比べると、学則など厳しくなく、自主性をもって生活している、また、専門科目を身につけたという自信をもって生活している、そういう意味で高専の生徒は生活意識や態度で大人びたように感じられます。普通高校で味わえない学問をするための学校としての環境の更なる充実を期待しています。

私が中学生時代にもし高専があったら、受験していただけます。

●会議と会議の合間に時間を使っていただき、質問に丁寧にお答えをいただいた小柳校長に感謝いたします。
(平成8年12月19日訪問 聞き手 建築学科 松岡高弘)



情報処理センター演習室にて

今回の研究室訪問は、このたび全学的に導入された学内LANの設置に力を注がれた、情報処理センター長の山下巖先生です。

今回導入された構内LANの概要を教えて下さい。

対外的には本校の情報処理センターから久留米NOCに繋がり、そこから全世界へ接続されています。校内へはセンターから5学科と一般科、および各研究室へ繋がっており、端末を用意さえすれば電子メールやインターネットが使えるようになっています。校内LANは平成4年度から設置要求をして、足かけ4年目で実現したのですが、本校はLAN環境が弱かったので、できるだけ早急に導入したいと思っていました。これで「計算」だけではなく、通信や情報検索などの時代に沿った新しい情報処理環境が整ったと思います。これからはそれを教育や研究にどのように活用するかということが大きな課題でしょうか。

設置に関しての苦労話などはありますか？

本校のネットワークシステムは二つの異なるメーカーの機種で構成されているので、設置の際にシステムを調整するのに苦労しました。また、ネットワーク方式が新しい方式に変わった時期と導入時期が重なったので、より将来を見据えた新しい方式に変更するためにいろいろと難しい調整をしなければならなかったことですね。

活用の面から見た校内LANはどうでしょうか。

まず、教官が電子メールを使い始めたことですね。学校行事や事務などの連絡にも電子メールを使うようになりましたし、生徒の教育にも電子メールやインターネットなどを利用し始めています。インターネットでは、生の英語を取り込んで聞かせたり見たりすることができるので、英語教育などに活かせるのではないかと感じています。また、生徒も昼休みや放課後にインターネットを見てています。歴史資料をインターネットで検索したり、留学生が母国語のニュースを見るなど、さらに一歩進んだ有効な利用をしている生徒もいますよ。

校内LANを使うにあたって生徒諸君に知っておいてほしいことがあります。

シリーズ
研究室訪問

情報処理センター

てほしいことはありますか？

現在の電話網を思い浮かべてもらいうわかりやすいと思いますが、ネットワークのチェックや停電時のシステム停止、復旧作業という管理や保守などのLAN運営にはものすごい人数の方が携わっています。そして、校内LANに関してはそれはほとんどボランティア的な働きです。校内LANを利用する際には、そのような裏方さんの苦労を知っておいてほしいですね。それから、インターネットを使う際には「チケット」と呼ばれるネットワークのチケットについて先生方によく聞いてから利用してほしいです。特に画像情報の著作権や売買契約などは身近な問題だと思います。インターネットは誰でも自由に使えるという発想で作られたものですから、学生らしいモラルを持って使う、ということが大事だと思います。

最後に、学生に対する情報処理センターのアピールを。

パーソナルコンピュータのOSがWindows95になり、50台のコンピュータがネットワークを介して全世界に通じる環境が整ったので、有意義に使ってもらいたいですね。昔と違って、今ではコンピュータは少し勉強すれば誰にでも使えるようになっています。情報処理センターは、常に最新の設備になるように工夫をしていますから、ここで勉強して、自由にコンピュータを使えるようになって卒業してほしいですね。

(聞き手 電子情報工学科 森紳太朗)



学生を指導する山下先生

特集

がんばってるよ 留学生

現在、本校には8名の留学生が在校している。母国を離れ、言葉のハンディを克服し、彼らは元気にがんばっている。今回は彼らの活躍を特集した。

本校の留学生紹介

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 3 E : ハシム君 (マレーシア) | 3 C : リズアン君 (マレーシア) |
| 3 A : タサンジョン君 (ラオス) | 4 M : アイザック君 (マレーシア) |
| 4 C : ロベルト君 (フィリピン) | 5 M : ファドラン君 (マレーシア) |
| 5 I : ロサリオ君 (フィリピン) | 5 I : ホナルさん (イラン) |

◎スキーツアー

まだ夜が明けきれぬ2月2日(日)早朝、留学生スキーツアーに参加した4名の留学生(アイザック、ハシム、リズアン、タサンジョン)は眠い目をこすりながら岱明寮正門前に集合した。2台の車に分乗していざ出発したのはよかったです、途中から雨が降りだし、前途不安になる。天山スキー場は雨でぐちゃぐちゃかも…。ところが、山を登りはじめると雨が雪に変わり、今度は車が滑りそうになって大慌て。



チェーン巻きに悪戦苦闘



降りてこれるかなー

かしないと止まれない。それでも、雪と戯れながら、写真を取り合ったりして楽しんでいた。

午後には、少々無謀と思えたが、リフトに乗って中腹まで登り、中級者用ゲレンデを滑り降りようということになった。無事降りてくるだろうかと多少心配であったが、全員満足げに転びながら降りてきた。そこで、めでたく全員集合して記念撮影。



左から村岡先生、タサンジョン君、リズアン君、アイザック君



吉野ヶ里にて

帰途に、吉野ヶ里歴史公園に立ち寄ったが、留学生諸君は日本の古代文化に大変興味を持っているようで、寒風の中、閉館時間まで熱心に見学した。

留学生の感想

- ・雪の中を歩く体験をさせてもらってありがとうございました。(3 E ハシム君)
- ・スキーって思ったより難しかったなと自分で思つた。最後に少し滑れるようになってとてもうれしかった。(3 A タサンジョン君)
- ・自分はスキーの経験がゼロだったので超ビギナーのレッスンから始めましたが、村岡先生から教えてもらった基本のスキーの滑り方は大変わかりやすかったです。(4 M アイザック君)
- ・吉野ヶ里歴史公園によって、日本の集落を見ました。私は、こういう日本の歴史的建築物はすばらしいと思うので、これが見れて幸運だと思います。(3 C リズアン君)

◎地元の名士と会食

荒尾市のロータリークラブから留学生にディナーのご招待があり、本校の留学生全員が参加。本校の高松校長先生もロータリークラブの会員であり、同席された。留学生諸君は2月5日(水)の夕刻、お迎えの車に乗って、会場である市内のレストランへ向かったが、いつになく緊張している様子であった。

会場には多くの会員の方が見えられており、アットホームな雰囲気に留学生の緊張もほぐれ、なごやかに会食が進んだ。ちなみに、このレストランのオーナーの方もロータリークラブの会員ということもあって、次から次へと運ばれてくる豪華な料理に目を丸くしながらも、にぎやかに談笑していた。この様に地元の方々と本校の留学生が交流することでお互いに国際的視野を広めることができ、留学生にとっていろいろな意味で有意義な時を過ごせたと思う。

◎日本の成人式初体験 キモノきちゃった!

ホナルさん(5 I)はiranからの留学生。日本の着物にあこがれていた彼女は今年の成人式の日(1月15日)に晴れて着物を着ることができた。母国の夕日を思わせる真紅の晴れ着がよく似合う彼女は本当に幸せそうだった。



国際交流講座 「アジアの若者たちと楽しいひとときを」

2月8日(土)市内の勝立公民館が本校で学んでいるアイザック君、タサンジョン君、ロベルト君、ホナルさんを招き、市の国際交流員ハイルマン健司さん(アメリカ)のコーディネーターのもとでパネル討議が開かれました。30数名の市民との活発な質疑応答を含め、真の国際交流のあり方について考えさせられた2時間でした。



就職戦線報告



今年度の就職内定状況は下表の通りであり、昨年と大差なく、強いて言えば求人企業数がやや増加したことである。求人倍率6倍・内定率99%という数字は、世間一般的には非常によい。

しかし、内容的には必ずしもその様には感じなかった。第一希望の企業に不合格になる例が多かったこと、毎年のように採用いただいている企業からのせっかくの求人に対して、人材不足のため推薦を見合せざるを得なかつたことなどがあったからである。

この不合格・推薦見合せの原因・理由として、一社の求人数が減ったことによる競争激化と同時に、受験側の学力不足と、仕事（企業）に関する認識不足があったと思う。

今回のこととふまえ、来年度以降、一人でも多くの学生が第一希望の企業に就職できるよう、次のことを望みたい。

まず、学力をつけておくこと。

就職シーズンになってあわてて準備しても間に合わない。特に、3年次位までの基礎的な科目を日頃から勉強しておくこと。

次に、事ある毎に産業界にも目を向けておくこと。授業や実験機材等を通して、どの様なものがどの企業で作られているのか、自分のやりたいものは何なのかなど、折りに触れて考えておくこと。また、工場見学、研修旅行、夏季実習は企業を肌で感じるよい機会であることも心に留めておいてもらいたい。

H.8.12現在

	M	E	I	C	A	計
就職希望者数	27 (1)	23 (0)	31 (13)	21 (9)	37 (20)	139 (43)
内定者数	25 (1)	23 (0)	30 (13)	21 (9)	37 (20)	136 (43)
県内内定者数	13	5	12	7	16	53
県外内定者数	12	18	18	14	21	83
求人企業数	200	216	167	88	134	805

() : 女子の内数

会社を選択するにあたって自分がやりたい仕事・得意な事を見つけるのは大切な事だと思う。私は幸いにもこの「やりたい仕事」を

ロボットコンテストで見つけることができた。また、4年生までの成績が会社の選択に大きく影響する事も間違いない。以前ほど求人数は多くはないが、それでも「いい人は取る」という状況にある。そんな中で希望の会社に入るにはそれなりの成績と、会社にアピールできる何かが必要なのではないか。

面接で必ず質問を受ける志望動機について、私もかなり頭を悩ませられ、結局当日会社に行くバスの中でもあれこれと考えていたほどだ。会社でやりたい仕事や得意な事については十分主張できたつもりだが、その他については半分程度しか言えなかった。

集団面接で周りの他の学生の話す事がかなり立派に思え、準備不足を感じた。5年生になつたらどこかに入れるだろうではなく、自分がどういう仕事に向いているかを考え、目標を持って学生生活を送る必要があるのではないかと思う。

気楽に過ごせた学生生活もあとわずかとなり、4月からは、社会人としての生活が待っている。期待もあるが、まだ学生のままでいたいという気持ちもある。しかし、社会の一員となるためにはこの様な考え方ではいけない。社会人になる前に心の準備が必要だ。

就職活動についても5年になるとすぐに活動に入るわけだが、心の準備が遅いと、周りの人達にどんどん先を越される。私がどの会社にしようかと迷っているうちに、準備ができている者はすぐに会社を決めてしまう。4年生の時から、就職の心構えぐらいはしておくべきだったと後悔している。周りが動き出してから自分が動いても間に合わないことがよくわかった。成績も同じだ。就職活動が迫ってから成績を上げようと思つても簡単に上がるものでもない。私は4年生になって専門教科が増えると、急に勉強が難しくなり、成績を上げるどころではなくなつてしまい、比較的、勉強が簡単な低学年のうち



5M 今村 裕幸

にもっと勉強しておけば良かったと後悔するはめになってしまった。3年生以下の皆も就職、又は進学をいつも頭に置いて日頃、勉強しておいた方が良い。



5E 田中 秀典

5年の5月になって学科主任の先生に昨年の求人一覧表をつきつけられ「さあこの中から就職先を決めてくれ。」と、こんな感じで私は就職と向きあう事となつた。就職の事をそんなに考えるでもなく過ごしてきたわけだし、就職を軽々しくほんと決められるわけでもない。そんなこんなで4社を受け、やっと内定をもらった私から一言。

「好きな事をがんばってくれ。」何か好きな事があれば今年でも一人あたり数社の求人があるので会社を選ぶ切りくちがあると思う。会社じゃなく他の進路もある。そんな事を少し考えていれば5年になつてあわてなくてよいと思う。



5E 長友 大輔

高専での5年間は長いようで短かい、1年生や2年生の学生は、就職や卒業は、かなり先のことと感じているだろう。でも、ほとんどの人が就職する。自分が本当に就職するとなるとかなりとまどうものだ。自分もそうであった。自分がどんな所に就職して、どんな仕事がしたいか、どんな事が得意で、どんな事が不得意か、など自分自身を見つめ直す良い機会になる。考えて、考えて、決めた会社の試験は運よく面接だけだったので、自分にはもってこいであった。例年その会社の面接はなごやかな雰囲気だと聞いていたので、リラックスして行ったが、いざ面接が始まると、今までと違い、自己ピアール、地元のアピール、長所短所、5年間で得たこと、得意な料理などを考へてもいなかつことを聞かれた。しかし、ペラペラしゃべってしまい、しゃべりすぎたと思ったが、内定をもらえた。とにかく面接では緊張せずに自分をアピールすることが大事だと思った。

卒業された先輩方の残された入社試験記録には、「個人面接、面接官10人程度、面接官の出題に対してホワイトボードに回答。外国人の面接官も1人。」とありました。



5I 住 丈士

試験当日、面接室の中はこのイメージどおりでした。そしていよいよ出題です。ここで面接官の「学校でプログラム言語は何を習いましたか。」という問い合わせると、「その言語で次の問題を解いてください。」と言われました。予想は的中。予め勉強していたので残りの面接時間を多少の余裕を持って終えることができました。皆さんも入社試験の際には、先輩の記録を活かし、後輩のために詳しい記録を残すことをお勧めします。



5I 武藤 直美

高専ではほとんど受験者のいない公務員試験を受けるにあたって、わからないことばかりで情報を集めるのに苦労した。まず、公務員用の問題集を購入し勉強したが解説が少なく、なかなか進まなかった。テキストと問題集が対応している方が良いと思い、出版社の講座を受講することにした。また毎月模試を受けて、試験の傾向をつかみ実力を確認していた。応用問題がほとんど解けていたため、テキスト中心から問題集中心へと勉強法を切り替え、弱点分野に特に力を入れた。

2次の面接については、新聞を読んで社会の動きを知っておくこと、また自分の性格のどのような所が公務員に向いているか、なぜ民間企業ではなく公務員なのかをはっきり言えるようにしておくことが大切である。

最後に、今まで指導してくださった先生方や励ましてくれた友人たちに感謝し、がんばっていきたいと思う。

近年の不景気な社会情勢の中で自分の希望する企業へ就職することは、一見困難に思えるかもしれないが決して不可能な事ではない。5年間の成績が合否に左右するのは当然既知の事だが成績だけではない事を理解して欲しい。すなわち「面接」であり、20分程度の面接試験で自分の人間性を採点されてしまうのである。ここで私が述べたい事は面接官はプロであり即席の自分を作ったところで通用しない、企業が欲しがる人間になる事だ。

言葉遣い、礼儀、態度、あらゆる観点から自分を見つめ直すことが大切である。また多数の面接官の前で自分の意見をはっきり言う事も重要である。課外活動を通じての切磋琢磨と向上を願いたい。自分の人生ですから悔いを残さず真剣に取り組んでもらいたい。

就職試験では、全国各地から集まった高専生や大学生そして大学院生までもが自分と争う相手になる。高専でも大学並みの授業を受けるが、やはり専門的な知識は大学生の方が勝っていると感じられる。だから、せめて自分の卒研について何を聞かれても返答できる様に、何のためにこのような事をしていく、将来どのように役に立つか理解しておくべきだと思う。

また、自分からどのような仕事をしたいかを言うことで、やる気を見せることが大切だと思う。

そして、急にいろいろなことを身につけようとしても面接官もプロなので、ボロを見つけるだろうから、そのようにならないためにも日ごろから挨拶など一般常識的なことを心掛けておこう。



5C 重行 圭太

就職試験を終え、私が感じた事。つらかった。もう少し勉強していれば良かった。これは当然の事だと思います。しかし、一番強く思った事は、もっと早い段階から、先輩やOBの人達と進路・試験・会社・将来の事について実際に話をいろいろ聞いておけば良かったという事です。進路(会社)を決める時、試験前等にパンフレットや報告書等を見て準備・決断するのですが、これらからは具体的な事、本当に知りたい事がなかなか伝わりません。これらを一番ストレートに伝えるものは実際の体験談“生の声”だと思います。だから、これから自分が何をしたいのか、夢に近づくためにどんな目標を立てたら良いか、という事を含め、部活・学科等の先輩・OBの人達と交流を深めいろいろな事を聞き、今のうちはいろいろな事にチャレンジして自分の可能性を広げ、本当にしたい事を探す事が大事だと思います。がんばって下さい。



5A 井上 真美

私が今回就職試験というものを経験して一番感じた事は、やはりほとんどの会社では男性と女性の差があるということでした。求人情報の紙を見ても男性のみというのが多く、女性を受け入れてくれる所でも男性と比べられるので不利になるのが多いというのが現状でした。

こういった就職状況の中で自分の希望の会社に入るために、卒業してからやりたいこと、自分のしたい仕事をしっかりとと考え、その会社の状況を把握し、それに向かって試験対策を行うこと。そして、団体生活の中で自分というものをしっかりと磨き、それを本番で最大限に發揮できるように、いろいろな事に参加したり、チャレンジしていく事が大事ではないかと思いました。

平成8年度資格試験、認定試験合格者

第3種電気主任技術者試験

合格者	科目合格者
5E 江藤 大輔	5E 石橋 英紀
5E 黒岩 剛	5E 小寺 智

工事担任者試験アナログ3種

合格者	科目合格者
4E 江見 勇作	4E 神保 将志
4E 長野 善行	4E 久富 弘毅



5A 有田 努

学寮だより

新寮長挨拶

4E 鶴田 義隆

新しく寮長に就任しました4年電気工学科の鶴田義隆です。代々、素晴らしい人が寮長として名を連ねて、昨年も5A濱口さんという大きな存在がありました。私自身はこれまで先輩方の指示によって動いていたのが、今ではその指示を出す方へとなって、寮長としての責任を一段と大きく感じています。そこで私の周りにいる副寮長の3A大和君、総務書記4A入江君、涉外4E井上君や他の新寮生会役員約20名の頼もしい人たちを中心に、寮生全員に協力してもらいたいながら、寮の行事や問題点などに取り組んでいきたいと思います。最近では、先輩と後輩の交流の場が少なくなり、年々、上下の繋がりが減って来ていると感じていますので、新寮生会役員には3年生7名、2年生5名になってもらい、各局で活躍してもらうと共に、下級生の意見や要望も参考にしながら役員全員で活動していきたいと考えています。一方で低学年寮生には、卒業生を含め先輩達の良い面を手本にして、また上級生には多くの後輩達がいることを自覚して模範となるよう規律ある生活をすることによって、充実した日を過ごしてもらいたいと思います。



寮祭 (8年11月16日)

岱明寮最大の行事。劇、仮装大会、マジカルチェンジ、一発芸などのゲームを行い、会場内には大きな歓声と笑いが響きわたり、秋の夜の楽しいひとときとなった。

寮長選挙 (8年11月25日)

信任投票の結果、新寮長に4E鶴田義隆君が選ばれた。

寮生消火訓練、女子棟非難訓練 (8年12月4日)

荒尾消防署の協力を得て、防火についての講話を聞き、消火器の扱い方と消火方法を体験した。また今年度は初めて女子寮生の非難訓練を行い、各階から代表1名

いろいろな面で先生方や事務の方々には、大変ご迷惑をかけるかと思いますが、寮生全員が目標をもち、規律ある集団生活をしながら、一生懸命目標達成を目指して努力していきますのでご協力よろしくお願いします。

■平成9年度 寮生会新役員

寮長	4E 鶴田 義隆
副寮長	3A 大和 洋
総務書記	4A 入江 智亮
涉外	4E 井上 和哉

各局	局長	副局長
会計	3C 梅木 淳二	2I 田中 力
風紀	4E 佐藤健太郎	2M 落石 和親
整備	4C 中島 健	4C 水江 宏
体育	3M 時津 智史	2M 杉原 義隆
厚生	3C 矢野 敦士	3M 椿 康弘
報道	3M 安松 大輔	2E 平川 竜也
娯楽	4E 小田 敏史	3M 山本 健太
写真	4M 松尾 伸一	2E 中野 祐紀



行事関係

ずつが非難通路を下りて実際に非難方法を体験した。
冬季球技大会 (9年1月18日)

好天に恵まれ、各棟階別にチームを編成し、男子はサッカー、女子はビーチバーボールの競技を行った。運動場と第2体育館に歓声が満ちあふれた。

寮生送別行事 (9年2月1日)

卒業予定寮生19名を送る行事で、昼は餅つきを行い、夜は劇と後輩からの「贈る言葉」などの祝賀行事を催した。

シリーズ クラブ紹介

今回は体育系クラブ最大の部員数を誇るサッカーチームと高専だよりなどの写真で活躍している写真部を紹介することになり、サッカーチーム主将の松本卓朗君(4E)と写真部部長の永田和美さん(3C)に教務室事務の吉田先生がインタビューをしました。

吉田：早速ですが、部員数を教えて下さい。

松本：現在40名です。また、マネージャーが3名います。

永田：全部で12名ですが、1年生がいないので現在募集中です。

吉田：日常の部活動はどんな内容ですか。

松本：現在は冬場の基礎トレーニングの時期で体力作りと基本練習を主にやっています。たまに、試合のビデオを見てみんなで話し合うこともあります。また、シーズン中は高体連の試合も含めて対外試合がたくさんあります。

永田：これまで、個人的に写真を取ることが中心で、みんなで集まって活動することがあまりなかったんですが、今は、毎週火曜日に部室に集合して、写真の基礎から勉強しようとすることになり、顧問の山下先生から指導を受けています。

吉田：サッカーチームは部員が多くてまとめるのが大変だと思いますが主将としてどんなことを心がけていますか。

松本：うちの部はコーチなど専門の指導者がいないので上級生が練習計画から技術指導までやらなければなりません。下級生を引っ張って行くには、自分自身が納得できるまで練習し、技術力を高めておかなければならぬと思っています。

吉田：写真の楽しさはどんなところに感じますか。



永田：私は風景を撮るのが好きなんですが、自分の気に入った景色を自分の撮影技術や焼き付けの加減で調整して自分流の写真として後に残しておけるというところでしょうか。

吉田：これまでの部活動の中で一番うれしかったことはどんなことですか。

松本：高専大会でシュートを決めたことです。

永田：高専祭で自分の撮影したキューピー人形の写真が超人気で、用意した分があつという間になくなってしまったことです。

吉田：今後どの様な部活動にしたいと思いますか。

松本：下級生には今のうちに基本的なことが身につくようにしたいと思います。また、試合が終わった後、結果にかかわらず、アトランタオリンピックの有森さんのような気持ちになれるように、妥協しない日々の練習をやりたいと思います。

永田：現在のようにみんなで集まって何かをやる活動を継続したいと思います。月に一度部員がテーマを決めて撮った写真を持ち寄ってみんなで鑑賞する活動も続けたいし、高専祭用の写真も撮りだめておきたいと思います。

吉田：最後に今後の最大の目標を教えて下さい。

松本：九州高専大会で優勝することです。

永田：高専祭や小文化祭の展示で皆さんから評価してもらえる作品を展示することです。

吉田：ありがとうございました。目標が達成されることを祈っています。

学生会だより

■新学生会始動



学生会長あいさつ

4E 井上 和哉

学生会長の4E井上です。去年の11月に平成9年度学生会として活動を始めました。前年度からの役員が9名、新役員17名の計26名で活動を行っています。新役員が多いため、最初は不安でしたが、今ではみんなしっかりと仕事をしています。今年度の一番大きな行事は第21回高専祭です。その間にも、球技大会や陸上記録会があります。こういった行事へのみなさんの協力、積極的な参加をお願いします。

■平成9年度 学生会役員

会長	井上 和哉	4E	文化局補佐	塚本 大樹	2C
副会長	山口 勤	4M	文化局補佐	清原 友美	2A
渉外	尾本 涼子	4A	整美局局長	佐藤 健太郎	4E
(副)	野口洋一郎	4E	副局長	尾川 彰宏	4E
会計	前岡 いずみ	2A	補佐	安陪 春香	2A
(副)	清原 康平	4E	風紀局局長	山田 明	4E
体育局局長	石原恵美子	2C	副局長	椿 康弘	3M
副局長	森山 史朗	4A	補佐	松本 隆太	3M
副局長	梅木 淳二	3C	報道局局長(兼書記)	磯田 恵子	4I
補佐	前田 容里	2A	副局長	永田 和美	3C
(副)	岸本 大志	2C	補佐	堀 真理恵	2C
文化局局長	笠間 敏博	3C	放送局局長	武末 幸代	3C
副局長	高場 千佳代	3C	副局長	杉山香奈子	2I

クラブ・リーダー指導者研修

12月6日～7日、1泊2日で篠栗町の福岡県立社会教育総合センターで、体育系クラブの顧問の先生方と各クラブの主将を中心とした、リーダー研修が行われ、私はバドミントン部代表として参加しました。その内容の1つに3つのグループに分かれ今後の部の活性化をはかるための話し合いをする「分科会」というものがありました。このような機会はありませんでしたが、残り約6ヵ月部を運営していく上で参考となる点が多くありました。そして改めて主将・副主将という立場の大変さを実感しました。今回の研修で学んだことを忘れず、今後も部活を頑張っていこうと思います。

4A 永松 瑞穂



TOPICS

ラグビー・フットボール大会

ラグビー部主将 4 A 上野 翼

今年の高専大会は、11月26日に北九州市立本城陸上競技場で行われました。1回戦は鹿児島高専が部員不足だったため、不戦勝となり、2回戦は、昨年の優勝校である都城高専と対戦しました。我々有明フィフティーンは精一杯タックルやスクラムをし、惜しい場面もありましたが、78-0で惨敗しました。これからオフシーズンに入りますが、この試合の悔しさを忘れず、春の新人戦へ向けて練習に励みたいと思います。皆様の応援ありがとうございました。



建築設計競技

(社)福岡県建築士事務所協会主催で、平成8年度福岡県内工業高校生並びに専門学校生による建築設計競技が9月に行われました。課題は、高校の部が託児所兼用住宅、専門学校の部が高速道路サービスエリアで、本校からは3 A 1名、4 A 3名が応募しました。その中で、4 A 森山史朗君が銀賞を獲得し、昨年に続き2年連続の銀賞受賞となりました。

第2回高専シンポジウム開催される

平成9年1月19日に第2回高専シンポジウムが、高専シンポジウム協議会と日本化学会共催により宇部市の国際ホテル宇部で開催され、全国の高専から81件の研究発表がありました。本校から5 Cの菊次篤志君と坂口美代子さんが、それぞれ“4-ヒドロキシスチレンと2-ビニルピリジンを含む共重合体および高分子ブレンドにおける水素結合に関する研究”と“ポリ(4-ヒドロキシスチレン)とポリ(2-ビニルピリジン)のブレンドに及ぼす溶媒効果”について発表しました。

冬季球技大会

11月29日に冬季球技大会が行われました。当日は小雨が降る中でも寒い1日でしたが大会ではその寒さを忘れてしまうようなすばらしい試合が多く見られました。

■冬季大会成績表

	優勝	MVP
サッカー	5 E	5 E 有田 朗
男子バスケット	5 I	4 A 久富 木綿
卓球	1 M	1 M 吉開 健介
ハンドボール	5 M	5 M 山口 裕也
女子バスケット	2 A	2 A 松村めぐみ
最優秀クラス	5 M	
優秀クラス	5 I	



編・集・後・記

今回の特集として、今年度限りで退官される高松校長先生へのインタビュー、学生の最大の関心事である就職について5年生からの体験に基づく助言、カラーページに自国では雪を見ることの少ない留学生のスキーパークを組んでみた。表紙は前回と同様のスタイルを取ったが、これについては新年度になってご意見を伺おうと思っている。

- 有明高専だより 第91号
- 平成9年3月3日
- 編集 ■ 有明高専広報委員会
- 発行 ■ 有明工業高等専門学校
- 〒836 大牟田市東萩尾町150
- TEL 0944-53-8611(庶務係)